ご あ い さ つ



西日本は大雨，東は干ばつ，今年はかなり異常な梅雨でした。会員の皆様如何お過ごしでしょうか。今年のKONCのシンポジウムはニュースでもお知らせの通り，去る６月30日京都大学理学部２号館大講義室で開かれ，「移入生物による生物相の攪乱」をテーマに会員外の方々もふくめ，約70人が参加し，丸１日熱心に討議が行われました。昨年のシンポジウム「淡路・阪神大震災と自然保護」に比べるとやや少人数でしたが，昨年は時期的に一般の方々の関心も深く，また多くの地学関係者の参加もあって当然のことであったと思います。

シンポジウムのあとの総会で，KONC発足以来今日まで本会の活動をご指導くださいました会長の四手井綱英，副会長の吉良竜夫両先生が顧問に退かれ，不肖，私が会長に推されました。両先生はKONCの生みの親であり，会の名称「関西自然保護機構」（略称，KONC）の名付け親でもあります。会発足に当たってその趣意書を中心になって起草され，基金の募金に奔走され，発足後は，常にその維持発展に心を砕いてこられました。

私は当時大阪市立自然史博物館長を務めていました。自然保護の理論的よりどころは生態学から始まったと思いますが，実際面ではきわめて学際的なものであると思います。私の専門は地質学，とくに微化石層序学という極めて基礎的な分野ですが，何らかのお役に立つことを願いました。また一方，調査研究・資料の収集・保管と，展示や，普及活動による自然保護へのパブリックオピニオンの形成を通じて，自然保護に貢献することは自然史博物館の社会的存在意義の一つでもあると考えました。そのようなわけで，私もKONCの設立やその後の運営のお手伝いをしてきた次第です。

発足時には70名あまりであった会員の数は現在約３倍になっています。研究者だけではなく，教育関係者や学生，自然愛好者，さらに，自治体の行政関係者，環境設計や工事関係者など，会員の幅も広がっています。会報も歴代編集委員や事務局員の方々のご努力でずいぶん充実し，立派なものになりました。しかし発足後18年という年月を考えると順調な発展ぶりとはいえないのではないでしょうか。それは会の性格が自然保護運動体ではなく，基礎的な調査研究と，その成果の普及を基盤とした地味なものであること，オイルショックやバブル経済とその破綻などに原因する経済優先的風潮の蔓延，さらにそれによって引き起こされた地球環境悪化の顕在化などで，基礎的な自然保護研究への関心が覆い隠されていることによるのではないかと思ったりしています。それだけに，われわれの活動はより活性化しなければならず，そのためにはこれまでの会の運営の仕方も点検，反省して，不備を改める必要があるのではないかとも思います。

それは浅学非才の私にとって大変な重荷ですが，副会長の小川房人，菅沼孝之，川那部浩哉の３先生，理事長の牧岩男先生をはじめ，優秀な若手の理事のみなさんと十分協議し，会員の皆様方のご意見を尊重しながら努力していきたいと思います。皆様方のご指導とご協力を心からお願い申しあげます。

最後に，四手井先生，吉良先生のこれまでのご尽力に対し敬意を表し感謝するとともに，これからも今まで通りご指導くださいますよう，心からお願い申しあげます。

1996年

会長　千地万造